

えっとうだより

オ1号・91.1.18・釜ヶ崎キリスト教協友会・641-7183

今週の野宿者

		総数	北	南	天王寺	日本橋	その他	参加人数
1/11(金)	はれ	268	32	52	113	71		27
12(土)	はれ	271	30	64	108	64		73
14(月)	はれ	239	21	33	65	49	山王 16 梅田 25	30
17(木)	はれ	76	24	52				

昨年12月25日から始まったオ21回越冬活動も1月10日で終り、2月末日の予定で協友会の夜廻りに入るのです。

この「えっとうだより」は、協友会の夜廻りが、月曜日は、ふるさとの家、金曜日は、希望の家などと拠点制となり、自分の参加できない日がどうなっているのか、どんな人がどんな思いで参加しているのかを少しでもわかるために、釜ヶ崎の日々のすがたを伝える目的で発行しています。多くの人が感じたことを書いてくれることを望みます。

今年の冬も野宿している人は少ないとのことでしたが、越冬活動中の17日間(13%~1/10)だけでも7人の方が、路上で亡くなりました。自分もよく知っている人もいて、悲しい、つらい思いです。クリスマスだの、正月だの世間がにぎやかな時に、無念の死に方をされた人がいることを、私たちは忘れてはいけないと思う。

大阪府は、45階建て、220㎡もの庁舎を建てるとのことだが、繁栄日本の中で釜ヶ崎だけ年間100名以上もの人が無念の死をとけている現実をどうとらえているのか。

釜ヶ崎を重く、暗くしている問題として、高令化と孤立化があります。

昨年3月までの有効手帳所持者約1.5万人の平均年齢が51.2才と初めて50代となり、50代、60代で60%を占めるようになりました。

仕事に就ける間はいいのですが、仕事にアツし、現金を持つことができなくなれば、釜ヶ崎では生活することが困難になります。ドヤに泊れず、野宿せざるを得ない状況に追い込まれていきます。

高令、病弱労働者が野宿するということは直接、生命にかかわる問題です。

私達は、夜まわりという“活動”を通して釜ヶ崎にかかわっていますが、これは生命を守る“闘争”でもあるということを確認しなければならぬと思う。(F)

各グループの 報告と感想

金ようび 11日

何故、夜まわりをするのでしょうか。
考えながら歩きました。
今年も冬が来たから？ いえ、違います。
寒い中、「家」がなく、路上で寝なければなら
ない『人』が昨日も今日も、そして明日もい
てるからだと思えます。

本来ならば、もっと根本のところから解決
をするためにエネルギーをついやすべきなの
でしょうが、今現在、苦しんでいる人がいる
限り、私は動かなければならないような気が
します。

冬の8週間だけでなく、年間を通して、も
っともっと労働者と共に考えていかなければ
ならないのでしょうか……。

祈りと共に行動していこうと思います。
主よ、どうか導いて下さい。

(香里カトリック教会・T)



なんか、この間のリーダーの集会の時にも
今日も話されていたんですが、「毎年の行事
みたいにおもわず、なぜ参加しているのかとい
う事を、自分の事として考えてみて下さい。」
と言われて、「あ～そうか」となんか「あ…
また釜ヶ崎の時期が来たな」と思っていた自
分に気付きました。これからも、もっとい
ろんな考えと新しい気持ちでがんばろうと思
います。私ひとりでは小さい力ですが、少し
でも必要としてくれる人がいるなら出来る限
りつきあっていきたいです。

(香里カトリック教会・O)

しのごにやられた人に出会った。
事件の現場を想像すると、ゾッとする。

けんかを始めた人を見かけた。間に入っ
たが酔っているせいかが弱かった。意外だ。
普段、私の方がこわがっているのに、逆の立
場にあることに気付かされた。話しかける
姿勢についてもそう感じさせられた。

(岡山教会・F)

◎ 学習会の予定 ◎

- 1/11・オリエンテーション
- /18・10.2『暴動』の意味するもの
- /25・釜ヶ崎の医療・福祉の現状
- 2/1・教会内で起こった釜ヶ崎差別について
- /8・釜ヶ崎のアルコール問題
- /15・討議・釜ヶ崎とわたし
- /22・まとめ①なぜ夜回りするのか
- 3/1・まとめ②なぜ夜回りするのか

土ようび・12日

5回目を迎える土曜の“こども夜まわり”は、1月12日に始まりました。

土曜夜まわりのテーマソングに今年は、チリのピオレッタ・バラの「人生よありがとう」がかわりました。またみんなを覚えていきたいと思います。

一回目の学習会では、昨夏こどもの里を中心とした“タイ・フィリピン旅行団”のスライドを見ました。今までの学習会で学んだことのまとめともいえる旅行で、参加できなかった人も親しみを覚えて熱心にスライドを見ることになりました。

今年の学習会の全体テーマは、「アイヌ民族と釜ヶ崎（寄せ場）・真実の出会いを求めて」で、内容は次の通りです。

1月12日・こどもたちの出会い、

（なぜ、夜まわり？）

19日・寄せ場にいたTさん、Hさんのこと、

26日・いまもあるアイヌ差別

2月2日・アイヌの生活と労働①（歴史）

4日・アイヌの生活と労働②（労働）

16日・アイヌの文化と生活①

23日・アイヌの文化と生活②

3月2日・まとめ「人生よありがとう」

“よまわりについて、おもったこと”

はしさか まさゆき

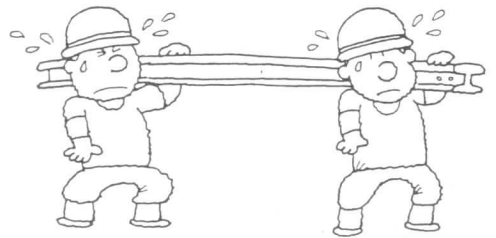
ぼくは、にっぽんばしにいきました。

こうぞくどうろのしたにいきました。

ひとりのおっちゃんがいきました。

おっちゃんに、タンボール1キロいくらかききました。9円とおっちゃんはいいました。

やすいなとおもいます。



野宿している人は、天王寺、日本橋など、地区外が多いのですが、亡くなる人は釜ヶ崎の中が大半です。

酔ってそのままにもかかず寝てる人、スホンも下着もぬれたままの人が少なくありません。そのような人に「出会いの家」を利用させていただいています。

今日（11日）4人の人が泊まりました。

ケンカをして天王寺にいた人、足のぬい人などさまざまですが、つかれてはったのかすぐに喜んで寝床につかまりました。



月ようび・14日

月曜夜廻りは、年間を通して行っているが大きな特色の一つは、梅田、中之島コースを曙光会が毎週夜廻りしていることである。

最近、特に感じるのは、野宿労働者の市内拡散化がより進んでいることである。

野宿者の移動にはいくつかの要因が考えられるが、あいかわらず少年たちによる投石や爆竹投げも流れているようである。

北回りの田辺運送もこのひとつ。昨年秋から野宿される労働者の減少が特に著しい。

若者たちが、おもしろ半分で作っているのだろうか。昨年10月の労働者の抗議行動(暴動)に多くの若い人が加わったが、ほんとうの意味での釜ヶ崎の労働者との連帯だったのだろうかと考えさせられる。

この越冬期の学習会の中心は、昨年10月事件であるが、もう一度この労働者の蜂起を思い出しながら、釜ヶ崎の日雇労働者と同じように現代社会の中で抑圧された若者との連帯の道を探りたい。

◎ 学習会の予定 ◎

- 1/14・デモンストレーション
- ／21・医療問題
- ／28・10・2事件の背景と分析
- 2/4・暴力団と警察(監視カメラ)
- ／11・私達の活動と信仰
- ／18・年金問題
- ／25・アルコール問題
- 3/4・オリエンテーション



ノート
より

南まわりで阪堺線、今池駅下でシノギにあった人に会い救急車を呼ぶ。すぐに警官が多数(4~5人のグループが2つ位、パトカー、事情聴取にかけつけた数人、合計で20人位)が出動。捜査協力のため調書作成への協力を依頼される。

バク子屋対策、シノギ対策への当方の不信を申し述べた上で、オーセ見者に同行 西成署に行った。10月の「暴動」後の警察のアリバイ工作を感じる。(その旨、主張した)
(1月11日・金)



- ・釜ヶ崎白書(1988~1989)が完成しました。定価・1000円です。
- ・釜ヶ崎の風 定価1545円 協友会結成20年を記念して、今までに書かれたもの、話されたものをまとめました。釜ヶ崎だけの問題としてではなく、日本社会の問題として、また自分の問題として考えてもらいたいものをまとめました。

その他、釜ヶ崎に関する書籍がいろいろあります。協友会資料室(旅路の里内・641-7183)へ、お問い合わせ下さい。

えっとうだより

オ2号・'91.1.25・釜ヶ崎キリスト教協友会・641-7183

今週の野宿者

		総数	北	南	天王寺	日本橋	その他	参加人数
1/17(木)	はれ	76	24	52				
18(金)	くもり	276	22	46	111	97		31
19(土)	はれ	257	24	55	110	68		91
21(月)	あめ	171	36	31	59	39	山王 16	27

< 結核 >

昨年の越冬報告(協友会通信18)には、越冬活動期('89.12.1~'90.3.15)までの行旅死亡人が報告されています。

その中で、驚くのは、死亡人30人中の10%にあたる3人の死因が肺結核ということです。

行旅死亡人とは、死後、身元がはっきりせず、引き取り人のない人々のことです。

その中に3人も肺結核でなくなったとなればやはり大事件です。

結核はもはや過去の病気といわれています。社会の人々もそう信じて疑いません。とくに結核は、伝染病ですから特別の対策がたえられています。まさか、結核菌をだしている人が、路上で沢山のひと々と共に生活しているとは思ってもよばないでしょう。

しかし、釜ヶ崎では、その信じられないことが、日々起っています。

今年の越冬活動('90.12.26~'91.1.10)

の医療相談でも約10人に1人の割合で、入院を必要とする結核患者が見られています。しかも、そのほとんどの労働者は、長いこと野宿しています。体が弱る。働けない。金がない。野宿。ますます病気が進むという構図です。

この状態がさらに変化しています。いままでには、釜ヶ崎の中に多かった結核の労働者が地域外にも発見され出したこととです。

ここ数年、野宿する人々の数は、釜ヶ崎内一に対して釜ヶ崎以外(天王寺・日本橋)が二の割合です。

土曜の子とも夜まわりでも四天王寺境内を野宿する結核の労働者と話しました。一緒に野宿する人の許さずわかったこととです。入院をする手続きをすすめています。

この事実を目撃して夜まわりをすすめて、結核患者が路上で死を迎えることなどないよう努めねばと思いました。(Q)

各グループの 報告と感想

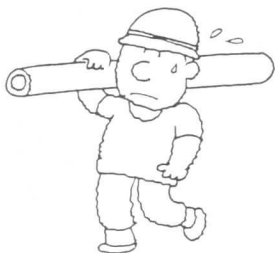
木ようび・17日

木曜日夜廻りは、年間を通して行なっているが、今年も21回越冬活動が昨年12月25日から1月10日実施され、その後協会が引き続き夜廻りの越冬活動を行う。

今年は越冬期間中、野宿を強いられている労働者が7人も亡くなってしまった。このことは、年々釜ヶ崎の労働者の状況が厳しさの中に追いつまれていることを感じる。

オ1回木曜夜廻りは、参加人数が少なく、南、北地区のみとなったが、特に南地区、釜ヶ崎地区では、高齢、病弱労働者が大半で、生活状況の厳しさの上には、常に生命の危機にさらされている状況下にある。

夜廻りをする時間帯、午後10時30分～12時30分頃は、無事に過ぎたとしても、夜明けの厳寒時は、生命の危機を常に余儀なくされること、越冬は、そんな厳しさの中での労働者の生の尊厳を守らなければならぬ。野宿を強いられている厳しい闘いを向い合える夜廻りでもある。(T.M)



金ようび・18日

1月18日の学習会は『10・2暴動』の意味するもの」のテーマの下、「きぼう」誌11月号を参考にして、行政の釜ヶ崎対策が「治安対策」を主眼として行なわれてきた事、その裏にある釜ヶ崎やそこに生活する人への偏見が福祉や病院の対応のあり方に反映してきている事を話しあった。

又、10月以降、路上トバクがかえって大胆に行なわれる様になっている事やシノギの横行も跡を絶たない事が報告された。

実際、今回も前回と同じく、シノギにやられ(木曜の晩)顔中血だらけにしてホシヤリ歩いている男性に会い、喜望の家に泊まってもらった。しかし、この前後、その近くで幾組ものパトロールの警官に出会っている。

我々でも、一目見て、シノギにやられたと思われる被害者に対応できず、どうしてシノギを捕える事が出来るだろう。それが面成警察の実態である事を改めて確認した。



ほんまにおじさんへの対応は、難しいと思いました。

あるおじさんを起こしたら、その人はあなががすいていてどうしようもないから、味ぞ汁とおにぎりをくれ、と言いました。

その要求に対して私たちは今すぐには対応し兼ねるので、明日、喜望の家に来てくれるように答えたところ「今、なんとかしてくれ、

何もできないのになんぞ起こすんや。声かけないで通り過ぎたらいいやないか」と言われた。私は何も言えなくなりました。

全くおじさんの言うことが正論だったから。

でも、そのおじさんがけっこう元気づけに見えたので本当におなかをすかしているのかな、と疑問にすら思ってしまった。

これは完全に私たちの立場からの見方であって本当のところどうなのかはおじさん自身にしかわからない。

そのおじさんの主張の真意をどう見極めたいのだろうか。

あ〜難しい。

一体、私は何をしたらいいでしょう？

(V365・A)

寒い外で寝ておられますが、きっとあすも仕事に行かれるのでしょうか。

かせなとひかれずに、この冬も健康が支えられることを願っています。

寒いところで孤独を強いられる現状が、社会構造によるものであるならば、私もその社会構造のどこかにいます。現状に対し、私ができることは何か、希望の家の活動にかかわることではいかがでしょうか。

通天閣がきれいになりました。

地域に住むみなさんの目にはどのように映っているのでしょうか。



(ルーテル西宮教会・S)

シンボルはキイになたケド...



土ようび・19日

“オ2回・こども夜まわり”

今日は、100人近くの参加者でした。

学習会では、アイヌと寄せ場ということ資料を見ながら、小柳先生が話をしてくれた。

名古屋の笹島で日雇い労働者がケンカをして、傷害致死をおこしたという事件があった。

死んだ人は日本人、殺した人はアイヌ民族の人でした。同じ日雇い労働者がケンカして死

んてしまった。たった3文字の言葉で人を殺してしまうことになったと。その言葉が「アイヌ」やった。「アイヌ」の意味は「人間」

やねんて。今、それがアイヌの人に対して見

下した言い方になってる。でも、アイヌという言葉にほこりを持つようとしている人もいる。

「朝鮮」と日本人が見下した言い方すんのと

同じ。今、在日の人やアイヌの人達にとっては日本は住みにくい所やと思う。

何でそうなるんやろ？ すごいしんといわ。

あたしらがアイヌの人達の人権を踏みしめる事なんかできる訳じゃないのに。

アイヌです。朝鮮人です。という事が恥かしくて言えない、本当の自分を出すことのできない日本。日本人をさえ、まるめこまれて

しまってる。

あたしは、アイヌの人達の事は詳しく知らん。木ぼりの熊やコロポックルを作ったりして

る人ってというのは知ってる。その人らが何でそう言われるんかな？ わからんわ。

“寄せ場はそういう面がよく出る所”と小柳

先生が言った。 そうなんか～。複雑な心算。 でも、いろんな事を知っていきたい。日本人以外の人のこと。

夜まわりは、北まわりに行った。24人もの多人数で行った。おっちゃん達も24人。まわり方や声のかけ方に気を使ってしまった。初参加の人も多かったし、騒がしかった。懐けてしまった？女の子に聞かれた。「厩間ここを通るの怖くない？」「こわくないよ、厩間のおっちゃんも今ねてるおっちゃんも一緒やん」「ねてるおっちゃんの方がいい」この女の子は、前におっちゃんに何か言われたりした事があったんぞ。ん～ どう説明したらいいか、わからなかった。

「おっちゃんがおにぎりいらんって。でも今食べへんかったら、また一週間待っとなあかんのんちゃうのん？」「えっ?!」と思っていうた。「あたしらが持ってきてるおにぎりだけで生活してる訳じゃないぞ。ちゃんと仕事してるんやから」思わずあきれた口調になってしまった。まだわかってない子ども達が多い……。各グループで出発する前にそういう事を話さきたらいいなと思った。

まわってる時、アイヌのおっちゃんがいた。話ができなくて残念だと思った。でも、自分から「アイヌの人間です」と言ってくれるまで、うちとけた話はむづかしいと思う。

カード下の鉄さくの中をねていたおっちゃん、あたしらはそのおっちゃんを見ながら歩いた。おりの中の何かを見ているように見えて嫌やった。すごく嫌やった。

南海線沿いの壁にハンカチで落書きがしてある。「不法韓国人帰れ！」

まわっていた女の子(小学生)4人(?)が韓国人だった。「なめてるわ。ふざけてる。日本人が連れてきてんやろ？」その言葉に。「はい、そうです。」としか答える事できなかった。すごく重くのしかかった。ごめんなさい…と涙が出そうになった。

両親とも韓国人でほんまの韓国の子ともが自国の言葉でしゃべれずに、日本語をしゃべり、通名を名のり生活している。時には差別され…無知な日本人達が差別している。

アイヌの人達もそんな差別をされてきたのだな…と思うと、日本人である自分は何をできる事ができるのか、していいかあかんのか…すごく考えてしまいます。

おっちゃん達が、今日一日元気をがんばってしてくれることを祈って……



月ようび・21日

“梅田・JR構内”

朝から降った雨で湿度があがり、底冷えのする今夜の夜まわり。11時近くになるとするのには大阪駅の人の動きはまだまだ活発で、残業に疲れたサラリーマン達は暖かい「我が家」へと足早に通りすぎていく。そんな彼等の目には暗がりになぞくまっている人たちの姿は全く見えていない。

クリーン作戦を次々と改装された駅構内は、この数年で見ちがえるように明るくきれいになった。その分、野宿する人たちには住みづらいきびしい状態で、入院した人もいるけれど、数年前に比べれば1/2以下の数に減っている。果た何処でどうされているのか??

大阪駅北口より東口の方へとくまなく巡回し、駅前バスターミナルから阪神ビルに通じる地下道を抜けるいつものコースで今夜出会ったのは15人。

ゴミ箱に捨てられた新聞、雑誌を集めて一日の糧とする老人。自動販売機の取り忘れたお釣やおちた小銭を待つ女性。レストランの残飯を餌えをしのぐ人も多いときいている。

また地方から仕事を求めて大阪駅に降りた人や西成から来た労働者を狙って、手配師が横行している。今夜も駅の通路を車座になって酒を飲みかわす2つの手配師グループに出会った。一日何回となく構内パトロールをする警官達は一体彼等にどんな対応をしているのだろうか?

一ヶ月近く夜まわりを休んだら、あちこちのおなじみさんに「久しぶりやなあ、どないしてた?」「病気がしたんか?」等と彼等の方から先にねぎらいの言葉をかけられ面くらってしまう。同時にみんな救いを待っていてくれるんだなあ実感する。

夜まわりを始めた当初は、「何とか彼等が今の状態から抜け出す手伝いをしなければ…」と気負っていたが、各自の自主性を尊重しながら、体を悪くした時、今の生き方をかえようと思う時などに、気軽に相談できる「仲間」の関係を大切にしていきたいと思うこの頃である。



大和中央病院の 医療ミス裁判へ 支援を!!

いまから二年前の1989年4月24日、救急車で大和中央病院に運ばれた労働者が、手抜き医療のために死んだり殺されました。

彼は、23日夜にも救急車で同じ病院に運ばれたのです。23日は、当直医が心臓病を肋間神経痛と誤診し、そのうえ心臓病に悪い投薬をしています。

24日は、肝結核とこれまた誤診し、救急を要する治療を怠りました。そのうちに病状は可すみ、狭心症-心筋梗塞と可すみ、最後は心タンホナーゼ(心臓がやぶれる)で、病院についてから三時間後に死亡したのです。

これは、あきらかに釜ヶ崎労働者に対する差別医療であると、釜ヶ崎医療連が中心になり、取り組んできました。

初期は、大和中央病院も話し合いに応じたのですが、すぐさま居直り、「こんな変死はときどきある」とうそぶき、話し合いを一方的に打ち切りました。

医療連が中心にこの問題を社会化するために準備をすすめ、さる12月13日、大阪地方裁判所に対し、民事訴訟として大和中央病院をうったえました。その裁判をすすめ、釜ヶ崎の医療差別をなくするために、1月24日、「大和中央病院闘争実行委員会準備会」を発足させました。

どうか、差別医療やそれによる行路死が、くりかえされぬためにも、みなさんの関心と協力をこの闘いに向けてくださることをお願いします。

「誤診で死亡」と 西成の病院訴え

い 弟
日 労働者の

大阪市西成区のおいりん地区(釜ヶ崎)で働いていた巨額労働者(当時六〇)の弟(五五)和歌山市在住が十三日、「兄が死んだのは、運ばれた病院で誤診されたうえ、適度な治療を受けられないまま長時間放置されたのが原因」として、西成区にある救急指定病院「大和中央病院」(南苑理事長)を相手取り、約七百六十万円の損害賠償を求める訴訟を大阪地裁に起

訴えによると、死亡した労働者は、去年四月二十三日夜、左胸が痛くなり救急車で大和中央

病院へ運ばれた。心電図検査で異常が見つかったのにも関わらず、痛みの薬を与えられただけで帰された。翌二十四日朝、苦しんでいるところを発見され、再び救急車でこの病院に搬送されたが、不安定狭心症が悪化して死亡した、という。原告は二十三日の診察で問診、血液検査などを十分にせず、問診結果と見たりえ法廷で主張を「誤診した二十四日に運び込まれた」としている。

こした。原告側は「西成区内では年間約百人が身元不明のまま路上で簡易棺泊所で死んでいくが、背景には日雇い労働者が十分な医療が施されていないという現実がある。訴訟を通じて地域の医療を改善していきたい」としている。

病院側は「突然の提訴で意外だ。患者は、二十三日は治療後、二十四日は診察の結果入院となり、病院としては可能な限りの治療をした。訴状を見たらうそ法廷で主張を「誤診した二十四日に運び込まれた」としている。

次回公判

1月28日(月) 午前10:00~

大阪地方裁判所・7/12法廷にて

えっとうだより

第3号・91.2.1・釜ヶ崎キリスト教協友会・641-7183

今週の野宿者

		総数	北	南	天王寺	日本橋	その他	参加人数
1/24(木)	くもり のち雨	222	41	47	113	21		
25(金)	くもり 一時はれ	287	37	47	107	96		32
26(土)	はれ	252	30	56	103	63		108
28(月)		154	34	19	73	28	山王 17 梅田	

〈入院〉

四天王寺境内で野宿していた結核の労働者が、天王寺福祉事務所を通じて入院できました。その手続きの過程でわかったことを少しここに書き残しておきます。

第一は、結核になっても入院できる病院が近年ますます少なくなって来ていることです。相原第二(市内)、島田(羽曳野市)、阪奈(大東市)、神田(和歌山)、広崎(尾崎町)丸山(神戸市)、公立では、府立羽曳野です。

かれは、阪奈に入院しましたが、もう少しで広崎病院に入院させられるところでした。一緒に行ったものが、最近の例を出してその病院の不適合さを強調しました。

それは、最近、広崎病院を退院してきた労働者が、社会医療センターでX線写真をとったら、広崎入院前より悪くなっているというのです。結核治療で入院して、病気が悪化する。こんな信じられないことが起こっていました。その話をして、別の病院に入れてくれるよう

にたのみました。あまりいい返事はかえって来ないので、西成福祉や市更相からは、紹介しないこともつけ加えました。

一緒に行っていなければ、「あんたは何度も入退院をくりかえしているから駄目だ。広崎なら入れる」とのことばで押し切られたと思います。治すために入院するのであって、行政の手間がよぶるために入るのではありません。

また広崎病院は、大和中央や杏林記念病院と契約を結び、救急で入院した結核患者を、広崎に送り続けているのです。

第二は、西成区以外では、野宿労働者の結核対策が不十分なことです。

もし、正式にX線写真をとるとなると、天王寺保健所は、毎月7日と21日だそうです。二週間も待たなければなりません。これでは、対策になりません。排菌していた場合は誰が責任をとるのかということなのです。

野宿労働者が釜ヶ崎地区以外で野宿したことを考え合せるとき、これに見合う結核対策が緊急になります。(Q)



各グループの 報告と感想

木ようび・24日

“越冬2回目の夜まわりを終えて”

毎年この時期では9時から学習会が持たれた後夜廻りとなるが、来週1月31日より学習会が行なわれることになった。テーマは「アメリカに於ける寄せ場の体験と状況」を吉岡氏に報告していただきます。

今日は相にく雨が降り、野宿を強いられている高令、病弱労働者の多い厳しい状況の中での夜廻りであった。特に、北と南地区では寒い雨の中、防寒出来ないまま野宿を余儀なくしている労働者が多かった。

四角公園で、雨にまともに打たれている労働者は、酔いの勢いで寝てしまったのか、私達が側にいき声を掛けると起き上がろうにも、体が冷てつき身動きもつ出来ない。両脇から抱きかかえ、支えるようにして旅路の里まで一緒に行くことが出来た。その労働者の方

は道中しきりに『これはどういうことやるう、おかしい、不思議なことあるんやな〜?』と自からに問いかけるように連言していた。旅路の里で、みんなで着換えを手伝ったが、冷えきった体の震えはとまらず、体も思うように動かせない状態だった。着換えや体を乾布マッサージしている最中に突然『あ、そうや、神さんや、神さんがしてくれたんやなあ〜』と震えながら納得されているように言った。

厳しい状況下の中での労働者にとって、越冬は身近に迫る労働者の生を守り、尊厳への問いかけであることを教えられる夜廻りであった。(T・M)

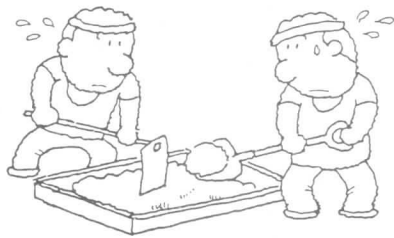
金ようび・25日

今回の学習会のテーマは、「釜ヶ崎の医療、福祉の現状」についてであった。

「白書」や、現在進行中の大和中央病院の問題と併わせ、夜回り後の医療、生活相談の具体的な例の報告も併わせて、その中から、釜ヶ崎における医療、福祉施策のおそまつさと問題点を話し合った。

夜回り後の報告と討議の段階では、南のグループが週通してシノギにやられた人と出会い(いすれも救之茶屋商店街周辺)、警察の対応等が問題になっているので、その点についても話し合った。

全体的に、野宿している人々の移動が大きい様を感じる。(クリーン作戦とか、何かの折ごとに、これがはっきり現われている。)



土ようび・26日

“オ3回・ことも夜まわりと学習会”

今日は、アイヌ民族の中1の女の子の作文を読んで、グループを作り話し合った。

いろいろな意見が出た。あたしが作文を読んですごいと思ったのは、「六年の中3初めてお父さん、お母さんの前で並んだ。(省略)いじめられていることはマイナスにしかなっていないと言う訳ではない。プラスにもなっている。いじめられるかなしみを私は知っている。」今までのいろんな思いがこの子の中に閉じ込められてたんやと思った。すごく苦しかった。どうしようもないわって。あたしもいじめられた事あったから人の事考える事が少しはできた。でも、あたしも差別してたんやと思う。ある女の子としゃべるとみんながジロジロ見る。それが嫌であまり話さなくなったりした。

んで、別の所を学級日記に“熊欠席”“熊冬眠中”とかを書いている生徒がいて、それを聞いた時、涙が出た。あきれてしまった。

何でそんなん言える?“36人と一匹です”
と言えり?! その子はどんな思いで聞いていたのだから。先生は何してたん? 信じられへん。教育をする人間が何を教えてんの? 差別する心か?! 何で先生になんの?
小学校の先生が三年のアイヌの女の子が仲間はずれされてるの知ってて、つき放す。同じ学校の校長がバカにする。何でやねん!
何でそこまで言われなあかんねん!
怒りしか、あたしには出てこない。

シャモと呼ばれてるあたしが、アイヌを差別してるシャモが怒っていうの愛かな?
シャモの中には一緒に生きたいっていう奴もいてる事を知って下さい。

アイヌという言葉は“アイヌ民族”という言葉であって、決して差別用語ではない。けれども“アイヌ”と言われる事で差別的な言葉と思ってる人もいるやろう。もどかしいです。

夜まわりは、日本橋の木津へ行った。40代位のおっちゃんが「これ積かっついて下さい。私は時々、夜になるん危ないから。」とナイフを渡した。精神的に疲れているようやった。

すこし先へ行くと、ビルがあってそこにねていたおっちゃんはいなくて、冷たい鉄柵だけがあつた。数年前、中学生がおっちゃんらにむかって石や消火器などを投げつけた。ビルのシャッターや前が消火器を汚れたんでそんな時に野宿できひんように作ったものだった。ヒイラギの木を植えたりやり方が汚ない。中学生をつかまえるべきなのに。

えびす町の駅もおっちゃんが救ってる。
シノギが目の前をぬけた。現場を押しえられ
れまいのに。

今日は、学習会をショックをうけすぎて疲
れた。

私の友人が修学旅行のみやけに買ってくれ
たアイヌの人の民芸品はいつも願いをきいて
くれる。アイヌ(人間)の作った民芸品を買
っている人たちに言いたい。

あなた達はアイヌ民族の歴史を知っていま
すか? あたしは知ろうとしているところ
です……

(西成高校3年 大谷 純)



がくしゅうかいで、アイヌの人を先生もせ
いともみんなアイヌ人をはかにしている。

先生がばかにすることは、めったにききま
せん。

先生がへんなことをやわんかったら、せい
ともゆうひとはおらんとおもいます。

アイヌ人もにんげんなのになんでもさべつ
するのかわかりません。ほくのともだちは、よ
くへんなこに「きもちわる」といいます。

おっちゃんはずくなかった。

(菟小4年・橋坂 光吉)

月ようび・28日

中の島コースは、「市役所より天神橋まで」
を以て「近くの公園や橋のたもと」の2つに
別れて回っています。

すべてのポイントを回ると60人~70人は
おられると思いますが、近所の店と契約(?)
してダンボールを集めておられる方も多く、
私達は、年配の方や身体の弱い方を中心に回
っています。従ってそれぞれ10~15人程度の
割りになるので、結構長い間話しができます。
中には思わぬ経歴を持っておられる方もおら
れ学ぶ事も多いです。

残念なことに、折角知り合いになれても、
様々のイベント開催に際し、「立ち退き」を命
ぜられる事があります。場所柄、仕方がない
とは思いますが、立ち退かれた方の居場所を
つかめなくなる度に、悲しい思いをします。

最後に、今年の元旦の雨の日に扇町公園で
寝具ごとずぶ濡れになって或る老人の方が亡
くなられました。大晦日のパトロールが休み
だっただけに、本当に残念に思いました。



えっとうだより

オ4号・91.2.8・釜ヶ崎キリスト教協友会・641-7183

今週の野宿者

		総数	北	南	天王寺	日本橋	その他	参加人数
1/31(木)	はれ	241	※不明	41	124	76		22
2/1(金)	はれ	298	40	55	114	89		47
2(土)	はれ	257	19	58	103	77		子ども40 大人49
4(月)	はれ	218	33	36	102	27	山王20	26

この冬の“越冬”も中日にさしかかってきました。でも本当の寒さはこれからでしょう。毎晩どこかのグループが“夜まわり”に出ており、そのつと何人かの野宿者が入院できたり、福祉を受けることができたりしていますが、夜まわりに参加する者の思いは複雑です。“ありがとう”という言葉に励まされて帰ってはいるものの、冷えきった地べたに寝ている人にとって、毛布や熱いみそ汁も、ただの気やすめにすぎないことがわかるからです。夜まわりをすればするほど、心のもやもやがつのり、怒りがたまってくるようです。“ツボ”のありがたがわからずにコリにこった肩をむやみになでさせているような、何かそのようないらだちに似ています。

釜ヶ崎での夜まわりが行なわれるようになって十数年。野宿する人々の奥情はほとんど変わっていないと聞きます。やはり夜まわりは野宿者のためというよりも、夜まわりをす

る者のいやしと意識改革のためであるということでしょう。私たちがかりしでも正しい視点から物事を判断できるように、野宿している方々が寛大に受け入れてくださっていると見る方がいいのかもしれない。

“現役の日雇い労働者との関わりを中心にした活動に取り組むことこそ、野宿の問題にも何らかの糸口を見出せるのではないだろうか”ここ数年間、夜まわりとその後の入院や福祉の手続きを介介して来られた先輩のこの言葉に、何かやさかな光を感じさせられます。

“野宿、行旅死の問題は一つの結果だから、そこだけをいくら改善しようとしても、だめだと思っけん”と。この示唆を大事にしたいと思います。

“越冬期”は確かに夜まわりがすべてではありません。むしろ釜ヶ崎の主人公、労働者の方々自身の“立ち上がり”にこそ協力していく道を求める時ではないでしょうか (T.H)

各グループの 報告と感想

木ようび・31日

木曜のグループは、学習会でアメリカの“ホームレス”の問題について学習しました。

一年間、アメリカの“ホームレス”の人たちと働いてきた吉岡さん(これを着ている私のことですが)の話しをもとに、少しの時間話し合いました。

アメリカで“ホームレス”と呼ばれる人たちと釜ヶ崎の労働者とは、どこが同じでどこが違うのか？ 問題を感じている市民や行政は、どんなことをしているのか？ “ホームレス”の人たちの生活は？

まだまだわからないことがいっぱいですが、少しだけ報告します。

アメリカにはシェルターと呼ばれる無料宿泊所が全国各地にいっぱいあって、とても十分とは言えないとは言え、とりあえず多くの人が路上で寝なくてすむ。

ニューヨークには1ヶ所を4人以上も泊まれる所もありました。

シェルターの朝は早く、釜ヶ崎のように多くの日雇い労働者が仕事に出かけ、高齢者には空カンを集めるバタ屋さんも多く、釜ヶ崎と共通する生活もありました。

炊き出しも内容が充実している所が多く、レストランのディナーのような食事が無料で提供されてました。

これらのほとんどは民間団体(宗教者のグループなど)が市や州の援助で運営していますが、こんな施設や食事も三百万人と言われる“ホームレス”の人たちには十分ではなく、不十分のまま“ホームレス人口”は増えつづけています。そして問題はより広く、大きく深くなるばかりです。



金ようび・1日

学習会のテーマは「ルーテル教会における釜ヶ崎差別の実態」で、5年前の「喜望」誌における差別文書以降も繰返される。ルーテル教会の釜ヶ崎あるいは日雇い労働者差別について、具体例の中から考えた。

特に、釜ヶ崎の労働者や野宿せざるを得ない状況に追い込まれた人々を「労務者」あるいは「浮浪者」と呼称し、又、位置づける事により、我々の社会の構造に対する変革責任の放棄や自己正当化等がなされている事を共に考えた。

発題者自身(村松)、5年前には、その場しのぎの対応という形でしか取り組めなかった事を振り返りつつ、教団内の余りのおそまつな対応と釜ヶ崎の現実の重さに、取組みに対する目を開かれた事を感謝すると同時に、今後とも取組みを深め、強めていかねばとの思いを深くした。

今日、勉強会の中で差別についての問題が
とり上げられたが、自分が意識せよとも、差
別をしていることがあることに気づいた。

それは本当に恐いことだと思う。そして、
自分の差別性に気づかされた後、それを自分
がどうとらえるか、今後の活動や考え方に生
かすよう努力すべきだということについて考
えさせられた。

(香里教会・M)

去年初めて参加して、今年も来ることにな
ったけれども、ふと、来年も、その次もまる
ご当たり前の定例行事の様な具合で参加し続
けるのだろうかと思ひ、そんな中で今、釜ヶ
崎の現状をも当たり前の様に感じるようにな
ってしまうのでは、と少しこわくなった。

また、今日の勉強会のお話を聞いて、私の
中の差別意識について、何故越冬夜回りに参
加するののかについて、何故でも考え直してゆ
かなければならないと思った。

(香里教会・B)



土ようび・2日

“オ4回・学習会と夜まわり”

今日の学習会は、アイヌ民族の歴史につい
て資料の地図を見ながら、小柳先生の話しを
聞きました。

日本人って真剣、残こくな生きもんや。
日本人が関わっている弱い国の歴史を知るた
びに「もう聞きたくない。知りたくない。」と
思う。そう思うからよけいに知っていかねあ
かん。特に日本人が。

教科書にも年表にも記されていない日本人がし
た事。学校で教えてくれない本当の歴史。
そっちの方が生きていく上で大切やと思っ
ています。

日本人がアイヌの人達にした事は、朝鮮で
中国でマレーシアでフィリピンで台湾で、そ
他の国で日の丸をあけて“郷国のために”
としてきた事と同じやと思う。

日本人がアイヌ民族の地だった“アイヌモシ
リ(北海道)”に上陸するきっかけとなったの
が、1100年前に島流しの場所にしたから。
犯罪人ばかりをアイヌ民族が住んでいるの
にも関わらず上陸させた。

それで和人对アイヌ民族が始まった。
コシヤマイソ、シャクシャインの乱、メナシ
(夜まわりだよりを読んで下さい)日本人の
やり方の残こくを汚ない事。信じられへん。
どうしようもできない。

シャモがアイヌを差別してるけど、本当の事
を知ったら? もし、それでも差別するなら、

典型的日本人になってしまおうのだらう。

本当の事を教えてほしい。知りたい。考えた
い。でも本当の事を知ったらきっと悔しさ、
情けなさ、他の思いも入りまじってしんどく
なるやろう。けど、知らなあかん。

人間やもんね。動物とはまた違うアホやから..

知里幸鬼さんが書いた事の一部を読みまし
た。今の地球、日本では自然もなくなってる
し、しんどい事が増えた。何でこんなやね
んやろう？ 人間が生まれた時から来まって
たんかな？

沢山のウソがある中で

極わあかなホントがちらばっている。

それを見つけた人は仲間を見つけ

もっと大切なホントを探してほしい

いつ見つかるかわからない

むづかしいけど ホントを見つけて

さげんだら 皆んな気がつくよ

でも さげなこともむづかしいかも

夜まわりは木津へ。

先週ナイフを預かったおっちゃんにナイフを
どうするか聞いた。処分してほいほいと
言うことでした。先週より元気だったので良
かった。

72才のおじいさんがアパートを探してほ
いほいということと月よう日に会うし、病院に行
くおっちゃんいるし。寒い中タンボール集め
て酒でも飲まなやってかれへんよね。でも飲
みあぎには気をつけて。

皆さん がんばって下さいね。おやすみ。

(西成高校3年 大谷 純)

“学習会”

アイヌの人のえらい人を、いまのさっぽろ
のところでよわせ乙から首をきった。

メナシとゆうところでまた首をきってしお
づけにして和人地のところで、さからったら
こうなるぞとゆうみたいにみせた。こわい
おもった。

こめとさかなをこうかんしていた。だけど
こめをあくなくしてさかなはかわらずこめだ
けあくなくした。

“よまわりのこと”

71才の人がドヤる60才の人は、ただではい
れるとゆうことを いてよろこんでいた。

みんなおっちゃんはしごとにいっていた。

ぼくのしっている人もいっていた。

よるもやっている。4時になったらまた
いっていった。ぼくらは、もう4時になっ
たらもうねるとおもう。

おっちゃんはあごいとおもう。

いつもいつもしごとばかりいっている。

あごいな～。

(橋坂 光吉)



“学習会”

今日の学習会では、うちの知らない日本の歴史を知った。その歴史を知った時うちはほん手に腹がたつた。同じ日本人としてはずかしくなってきた。

その歴史とは、日本人がアイヌの人達の土地（北海道全部）をとってしまうということだ。なぜうちが腹が立ったかという。アイヌの人達の住んでいた場所をしんりやくすることじたいもひどいことなのに、アイヌの人達をだまして何人もの人を殺したということだ。そのだまし方というのが、ほんまにきたないやり方でほんまに人間のあること？と言ってしまう。殺すのにも、みんなの首を切って...ほんまにこんなむごいことしてんのに学校が何もおしえへんなんて...。うちらは今、北海道でどうということが起きて、日本がどんなひどいことをして、何人もの命をうばっていったか知らないでいる。ほんまに何ごともなかったようにしている日本人。アイヌの人達が今どんな気持ちで日本人のことと思っているのだろうか。何人もの仲間が目の前で殺されていっている時どんな気持ちで見ているのだろうか。日本人が昔やっていたこと、今やっていることは一番ひどいようなやりかただと思う。

こんな歴史があったなんていっていただれが知っていただろう。

学校とかがほんまのことを、本当にあったこと、出来事を教えないかぎり、大人達が教えないかぎり、いっていただれがこのことを伝えていくのだろうか。

(中一・かおえ)

月ようび・4日

阪急電鉄梅田駅を中心としたコースは、阪神デパート裏から出発して梅田地下街を通りランドビルの29、30、31階のエスカレーター横のベンチを見回り、阪急電車の東側をカツバ横丁へ、そこから引返して駅の二階、三階の改札口前を経て北向地蔵へ、最後に阪西側の歩道を通って出発点へ、となっている。

ランドビルは暖房がきいているので閉館前まで何となく時間をすごしてその日のねぐらを探して散ってゆくと言った人が多く、服装も劇に小ざっぱりしていて肉体労働をしているようにも見受けられない。きいてみると当日発売の週刊誌やマンガ本、使用者みのテレフォンカードなどを集めて買ってもらっていると云う。

食事は大方の人が食街の残飯をよませているようだが、中には北の新地まで遠征している人もある。

毛布を小脇にかかえ、衣類とおにぎりの入った袋を下げて歩きながら建物の奥まったところで雨風の当りにくいところをみつけると「ここなら青カンしても少しはましかな」などと思ってしまう。

体の具合の悪いとわかっている人でもなかなか病院へ行こうとせず、だんだんおとろえてくるのをみるのがとてもつらい。

そんな思いをしながらかく、月曜夜まわりである。

